【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年3月18日(2010.3.18)

【公表番号】特表2009-533973(P2009-533973A)
【公表日】平成21年9月17日(2009.9.17)
【年通号数】公開・登録公報2009-037
【出願番号】特願2009-505623(P2009-505623)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｌ　12/56　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｌ　12/56　　２００Ｚ
Ｈ０４Ｌ　12/56　　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月28日(2010.1.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２６】
通信システム１００は、トランシーバー２００の一部ならびにトランシーバー３００の一部を備えている。よく知られたコンポーネントに加え、かかるトランシーバー２００は、エラーパケットモジュール２１０、送信管理モジュール２２０、ＱＯＳ　ＩＤモジュール２２５、ＱＯＳモジュール２３０、パケットＱＯＳ割り当てモジュール２４０、再送信バッファ／インターリビング／デインターリビング／ＲＳ符号化／ＲＳ復号化メモリ２５０、カウンターモジュール２６０、メモリ管理モジュール２７０、ならびにコントローラー／メモリ２８０を備えている。
トランシーバー３００は、通信チャネル１０を介してトランシーバー２００に接続されている。よく知られたコンポーネントに加え、かかるトランシーバー３００は、エラーパケットモジュール３１０、送信管理モジュール３２０、ＱＯＳ　ＩＤモジュール３２５、ＱＯＳモジュール３３０、パケットＱＯＳ割り当てモジュール３４０、再送信バッファ／インターリビング／デインターリビング／ＲＳ符号化／ＲＳ復号化メモリ３５０、カウンターモジュール３６０、メモリ管理モジュール３７０、ならびにコントローラー／メモリ３８０を備えている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３１】
さらに、ここでは”パケット”が用いられているが、用語”パケット”は、いずれの基本的なデータユニット、すなわち、バイトのグループを含んでいる。例えば、パケットは、ＩＰパケット、イーサネット（商標）パケット、ＡＴＭセル、ＰＴＭパケット、ＡＤＳＬ　Ｍｕｘ－データフレーム、ＰＴＭ－ＴＣコードワード、ＲＳコードワード、ＤＭＴシンボル、あるいは、通常、どのようなバイトのグループ又は情報を含むものである。また、パケットは、上記の一以上の組み合わせであってもよい。例えば、パケットは、より大きいバイトグループを作り出すため、いずれの数のＡＴＭセルに集中することにより構築してもよい。例えば、５３バイトのＡＴＭセルを５つ組み合わせて２６５バイトのパケッ

トにしても、あるいは、６５のＰＴＭ－ＴＣコードワードを４つ組み合わせて２６０バイトのパケットにすることもできる。パケットは、上述のバイトグループの分割に基づくものであってもよい。例えば、ここで述べる再送信機能におけるパケットとして用いるため、大きなＩＰ又はイーサネット（商標）パケットを小さなバイトのグループに分割することもできる。例えば、１５００バイトのＩＰパケットを、５００バイトのパケット３つに分割し、再送信プロトコルによって用いられるようにしてもよい。再送信機能がＰＴＭ－ＴＣとして実行される場合、パケットは、ｘＤＳＬ送信器のＰＴＭ－ＴＣにおける高位レイヤから受信され、当該ｘＤＳＬ送信器のＰＴＭ－ＴＣにおける高位レイヤならびにＰＭＤを介し、通信チャネルを通じてｘＤＳＬ受信器に送信される。かかるｘＤＳＬ受信器のＰＭＤならびにＰＴＭ－ＴＣは、受信された信号を処理し、情報を処理し高位のレイヤに引き渡す受信パケットＰＴＭ－ＴＣにその結果を引き渡す。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０２０３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０２０３】
ステップＳ１９０においては、再送信バッファからパケットが削除される。次に、一連の制御が終了するステップＳ１４０へと続く。